

令和7年度 萩間小学校 学校評価（自己評価）結果

1 本校の長所と課題

長所	課題
<p>○家庭、地域など、多くの大人に愛されている基盤をもち、明るく、素直で屈託のない笑顔を見せる子供が多い。</p> <p>○どの学年も 30 人以下あるため、一斉指導の場においても教員が一人一人に目を配りやすい。</p> <p>○豊かな体験活動が根付き、地域の多くの方たちと関わりを重ねている。</p>	<p>▲単学級による人間関係の固定化</p> <p>▲学級内の学力差→授業への参加意欲が低い子供がいる</p> <p>▲行事等で育った自信や資質能力が、その後の学校生活につながっていない。</p> <p>▲自己肯定感が低い傾向 「自分のことが好き」R6 前期 64.5%、後期 69.5%</p>

2 学校の教育目標

経営理念（めざす学校像）	自己肯定感の高まる学校
学 校 教 育 目 標	自ら学び 共に伸びる
重 点 目 標	自分から やってみよう
経 営 の 重 点	<p>(1) どの子供も真剣に取り組み、「分かった、できた」「考えが広がった、深まった」を実感できる授業づくり</p> <p>(2) 発達支持的生徒指導を基盤とする、望ましい集団活動を通じた温かい人間関係作りと主体性、自己肯定感の育成</p> <p>(3) 地域への愛着の育成</p> <p>(4) 学び続ける職員集団</p>

○「自分から やってみよう」と動き出した子供が、挑戦できた自分に自信を持つとともに、挑戦を通して充実感や達成感を味わい、そこで得た成功体験や失敗体験を生かして次の挑戦につなげていくことで、自己肯定感を高めていく。

3 本年度の具体的な目標と計画及び評価（前期）

評価項目	具体的な取組	成果指標	目標値	評価	理由（成果○と課題▲）
(1) どの子供も真剣に取り組み、「分かった、できた」「考えが広がった、深まった」を実感できる授業づくり	○「どの子も学べる授業『かんがえる つなげる ふりかえる』」をテーマとした校内研修の推進	授業が楽しい。	85%以上	B	【学校評価アンケート結果（児童）より】 ・授業が楽しい：89.2%（前年度比+4.7%） ・授業で学習していることがわかる：87.6%（前年度比-5.4%） ○授業が楽しいと感じる子供が前年度よりも増えてきている。 ▲学習内容がわかると感じる子供が微減している。楽しいだけではなく、分かる授業づくりをより目指していく必要がある。
		授業で、学習していることがわかる。	90%以上		
(2) 発達支持的生徒指導を基盤とする、望ましい集団活動を通じた温かい人間関係づくりと主体性、自己肯定感の育成	○「思いやり活動」の実施 ・挑戦する意欲、お互いの頑張りや思いやりの称揚 ○ステージごとの目標と振り返りの実施 ○個々の子供の課題の把握と支援の充実 ○ルールの明確化 ○関わってくれた人への感謝	学級や学校のみなどと協力することができている。	85%以上	B	【学校評価アンケート結果（児童）より】 ・学級や学校のみなどと協力することができている：90.0%（目標値達成。前年度比+5.4%） ・自分のことが好き：78.3%（前年度比+8.6%） ○友達との協力を意識している子供が増えてきている。 ○子供の自己肯定感が確実に増加してきている。
		自分のことが好き。	80%以上		
(3) 地域への愛着の育成	○学校運営協議会・地域学校共同本部と連携した体験活動の積極的な実施 ○義務教育学校化以降も、地域で持続可能な活動の検討	地域の方と一緒にを行う体験学習が楽しい。	90%以上	A	【学校評価アンケート結果（児童）より】 ・地域の方と一緒にを行う体験学習が楽しい：97.7%（目標値達成） ・地域の人・もの・ことに関わる学習を通して地域が好きになっている：93.1%（目標値達成） ○各学年で、積極的に地域の方たちとの体験学習を実施することができている。 ○地域と連携し、防災キャンプの新規実施、花壇コンクールへの参加の見直し等、地域で持続可能な活動への転換を図っている。
		地域の人・もの・ことに関わる学習を通して、地域が好きになっている。	90%以上		
(4) 学び続ける職員集団	○校内研修の充実 ○個々の児童の把握と支援に対する組織的な対応 ○情報の共有	教職員としての専門性を磨き、自己の成長を実感できている。	90%以上	B	【学校評価アンケート結果（職員）より】 ・教職員としての専門性を磨き、自己の成長を実感できている：72.8%（前年度比+2.6%） ・情報が共有され、共通の方向性に向かって取り組むことができている：90.9%（新規） ○教務会で、学校の様々な課題を共有し、対応等について協議・確認を行うことで、共通の方向性に向かって取り組むことができるようにしている。 ○校内委員会や校内就学支援委員会において、配慮を要する児童への支援・指導を明確にし、支援が積み重なっていくように整えた。
		情報が共有され、共通の方向性に向かって取り組むことができている。	90%以上		

4 本年度の具体的な目標と計画及び評価（後期）

評価項目	具体的な取組	成果指標	目標値	評価	理由（成果○と課題▲）
(1) どの子供も真剣に取り組む、「分かった、できた」「考えが広がった、深まった」を実感できる授業づくり	○「どの子も学べる授業『かんがえる つなげる ふりかえる』」をテーマとした校内研修の推進	授業が楽しい。 授業で、学習していることがわかる。	85%以上 90%以上	B	【学校評価アンケート結果（児童）より】 ・授業が楽しい：90.9%（目標値達成。前年度比+6.4%） ・授業で学習していることがわかる：87.9%（R7前期比+0.3%） ○授業が楽しいと感じ、真剣に取り組む子供が増えてきている。 ▲自分の考えを発信していく力をより付けていく必要がある。
(2) 発達支持的生徒指導を基盤とする、望ましい集団活動を通じた温かい人間関係づくりと主体性、自己肯定感の育成	○「思いやり活動」の実施 ・挑戦する意欲、お互いの頑張りや思いやりの称揚 ○ステージごとの目標と振り返りの実施 ○個々の子供の課題の把握と支援の充実 ○ルールの特明確化 ○関わってくれた人への感謝	学級や学校のみなどと協力することができる。 自分のことが好き。	85%以上 80%以上	A	【学校評価アンケート結果（児童）より】 ・学級や学校のみなどと協力することができる：92.4%（目標値達成。前年度比+10.7%） ・自分のことが好き：85.6%（目標値達成。前年度比+15.9%） ○温かい人間関係・自己肯定感ともに、目標値を達成できた。 ▲義務教育学校化を見据え、より多様な人たちと望ましい人間関係を築いていく力を育てていく必要がある。
(3) 地域への愛着の育成	○学校運営協議会・地域学校共同本部と連携した体験活動の積極的な実施 ○義務教育学校化以降も、地域で持続可能な活動の検討	地域の方と一緒に行う体験学習が楽しい。 地域の人・もの・ことに関わる学習を通して、地域が好きになっている。	90%以上 90%以上	A	【学校評価アンケート結果（児童）より】 ・地域の方と一緒に行う体験学習が楽しい：97.0%（目標値達成） ・地域の人・もの・ことに関わる学習を通して地域が好きになっている：91.6%（目標値達成） ○各学年で、地域の方たちとの体験学習を積極的に実施できた。 ○地域と連携し、防災キャンプの新規実施、花壇コンクールへの参加の見直し等、地域で持続可能な活動への転換を図ることができた。
(4) 学び続ける職員集団	○校内研修の充実 ○個々の児童の把握と支援に対する組織的な対応 ○情報の共有	教職員としての専門性を磨き、自己の成長を実感できている。 情報が共有され、共通の方向性に向かって取り組むことができる。	90%以上 90%以上	B	【学校評価アンケート結果（職員）より】 ・教職員としての専門性を磨き、自己の成長を実感できている：77.7%（R7前期比+4.9%） ・情報が共有され、共通の方向性に向かって取り組むことができる：77.7%（R7前期比-12.3%） ○ICTを活用し、職員間で情報が即時共有できるようにした。 ▲校内組織とその機能の見直しを行い、より組織的に対応できるようにしていく必要がある。

5 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由及び次年度の課題
A	○本年度の大きな課題であった「自己肯定感の向上」を目指す学校像に据え、全職員で取り組んだ。その結果、「自分が好き」と答えた児童は、前年度の前期から+19.4%増加し、目標値を達成することができた。 ○授業においては、「どの子も学べる授業」を目指して研修に取り組んだ結果、授業に参加しようとする意欲や態度が育ってきている。一方で、学習内容の理解や、伝える力の育成が課題として明確になってきた。 ・次年度は、令和13年度の義務教育学校化を見据えて、より「多様な状況にも対応できるたくましさ」や「互いに切磋琢磨し合う人間関係づくり」に重点をおいていきたい。

◎「3～5」における評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

